



30センチ級がアベレージ



食いが立つとダブルもしばしば



タモで確実に取り込もう



▲目下の釣り場は金谷沖の水深56メートル前後



▲タナは海面からの指示で、54メートルまでピシを下ろし、コマセを振って2メートル上げて待つのが基本



KIN-AJI 金魚鰻

▼付けエサはアカタンが支給される

●黄色っぽい魚体の、金アジ、は釣り人垂涎的



▶コマセはイワシミンチ

内房金谷港出船

評判どおりの良型ぞろい 金谷名物、金アジ、春に向かって上昇気配

撮影◎本誌編集部



▲ハモノ狙いでイナダとヒラメも上がった



●アジを釣るなら忠七丸と決めていこう常連さん

ENJOY MORE

ハモノ狙いで楽しみ倍増!

忠七丸のアジ乗合は8名限定で四隅の釣り座では2本竿でアジを釣りつつハモノ狙いが楽しめる。また胴の間でも竿は1本までのルールながら、船長の了承を得て、ひとしきりアジを釣った後に仕掛けを替えてハモノを狙うことも可能だ。

▶ハモノ狙いが楽しみで同船に通うファンも多い



●食味に惚れて金谷に通うファンは多い



▲ハモノ仕掛けはヒラメ用でOK、標準オモリは100号



▶マトウダイがヒット。魚礁周りのポイントはイナダやカンパチなどの青物やヒラメの実績が高い



▼仕掛けは全長2メートル前後の2〜3本バリ、アンドンピシはオモリ80号

船長によれば連日反応はあるとのことだから、潮が効けば復調必至。アジの引きを存分に楽しめるだろう。(詳細は54ページ参照)

内房金谷の名物といえば、金アジ。幅広で身に張りがあり、脂を蓄え黄色味を帯びた居着きの個体は極上の味覚。金谷港の忠七丸は周年のアジを看板に掲げる船宿のうちの軒で、目下は金谷沖の水深56メートル前後の沈船周りを中心に狙い、30〜35センチ級主体にトップで30〜40尾前後、いい日は70尾以上釣れている。2月下旬の取材日は潮が動かず全般にアタリが遠かったものの、ボツボツ上がるアジは評判どおりの良型ぞろい。



●体高がある太った個体が多い



◎内房金谷港・忠七丸 井戸 貞雄船長